

## 第124回「建設施工研修会」開催のご案内

標記の「研修会」(工事記録映写会)を下記のとおり開催いたしますので、多数お誘い合せのうえ、当日会場へご来場下さいますよう、ご案内申し上げます。

記

◎ 場 所: 機械振興会館 地下3階 研修-2号会議室

◎ 日 時: 平成 26年 6月 19日 (木) 14:00~17:00 (CPD受付 13:30~)

◎ 入 場: 無 料 (当日、入退場はご自由です。CPD発行希望者以外)

※ ご来場の折には、入り口付近にパンフレットを用意しておきますので、ご自由にお取り下さい。

**また、名刺受けを設置しておきますので、恐れ入りますが、ご名刺をお入れ下さい。**

### 第124回「建設施工研修会」プログラム

1	液状化対策技術 総括版 5工法紹介	H23	9分	前田建設工業(株)
2	広域的なネットワーク形成に向けて	H25	22分	東京急行電鉄(株)
3	超低空頭場所打ち杭工法紹介動画	H25	4分	鉄建建設(株)
4	孔壁防護併用場所打ち杭工法紹介動画	H25	4分	鉄建建設(株)
5	20t級ハイブリッドショベル紹介	H24	9分	コベルコ建機(株)
6	FTJ(エフツインジェット)工法 2流線式セメントスラリー噴射攪拌工法	H25	9分	(株)不動テトラ
7	液状化を防ぐ	H23	10分	(株)不動テトラ
8	ジェットポンプ式サンドバイパス工法	H26	11分	五洋建設(株)
9	アウトバーン(ドイツ)	S11	12分	(株)NIPPO
10	島原道路舗装工事	S35	35分	(株)NIPPO
11	省エネ立体都市への挑戦 「あべのハルカス」	H25	15分	(株)竹中工務店
12	無人化施工技術の実証実験	H24	7分	(株)大林組
13	災害廃棄物が処理されるまで 災害廃棄物処理業務(石巻ブロック)2013年度版	H25	15分	鹿島建設(株)

一般社団法人 日本建設機械施工協会 業務部

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館

TEL:03-3433-1501 FAX:03-3432-0289

## 記録映像の概要

1	1. マルチジェット工法 2. Award-Demi工法 3. MAGAR工法 4. SIMAR工法 5. 地下水位低下プレロード工法 計5工法について
2	本事業は東急東横線の渋谷駅から代官山駅までの約1.4km区間を地下化し、東京メトロ副都心線と渋谷駅で相互直通運転を行うものである。 この映像は地下化工事と平成25年3月15日の終電から16日初電までに実施された切替工事の施工記録である。
3	軽量小型ながら杭径φ800～3000mmに適用でき、狭隘空間での施工が可能な超低空頭場所打ち杭工法の紹介動画
4	掘削と同時に孔壁を防護でき、孔壁崩壊リスクを最小限に抑えることができる孔壁防護併用場所打ち杭工法の紹介動画。
5	2012年10月に販売を開始した、ハイブリッド式油圧ショベルSK200H-9の商品紹介
6	FTJ工法は機械式攪拌翼の先端から固化材を噴射することにより、任意の大断面で造成を行うことができる噴射攪拌工法です。改良体の形状は柱状改良のほか、扇形に造成することもできます。山留め壁などの構造物と地盤改良の間詰め・構造物直下など幅広い用途に適用でき、2流線スラリー噴射による高速度施工を行うため工期の短縮も可能です。
7	東日本大震災でも広い範囲に地盤被害をもたらした「液状化現象」について解説、液状化を未然に防ぎ、構造物を守る地盤改良工法をご紹介します。
8	漁港などの構造物の上手側に堆積した土砂を、下手側の浸食箇所人工的に移動させ、砂浜を復元する工法のことです。今回のシステムは、従来のようにダンプで運搬するのではなく、上手側に設置したポンプで砂を吸い圧送管で下手側に砂を運ぶ恒久的な砂輸送システムです。
9	第二次世界大戦前に建設されたドイツの高速道路。 いわゆるヒトラー道路の建設工事記録。 当時の機械と施工状況のシーンが興味深い、長大なアウトバーン完成状況の紹介シーンがほとんどである。 尚、当フィルムは、ドイツにも残っていないとのことで、歴史的に貴重なものといえる。
10	昭和35年8月6日竣工。 島原道路は、雲仙岳の山麓で、全長約15kmの観光道路である。大正15(1926)年に、県立公園だった雲仙への自動車登山道路として開通したが、現状は砂ぼこりがたち、狭い危険な山道のまま放置されていた。そのため、日本道路公団が昭和34年4月に、改良及び舗装工事に着手し、この施工を当社が受注した。工期は、昭和35年1月から同年8月までの8ヶ月間であり、延長15km間に22カ所のカーブがり、最急勾配9%、平均勾配4.3%、最小回転半径15mの山岳道路で、緩和区間には、クロソイド曲線が採用される等、車の乗心地や安全感に配慮された。基層には、「島原焼土」を用いたソイルセメントによる安定処理工法が採用され、更に即時交通開放しながらの施工は、新しい試みであった。 昭和35年8月30日に開通式が行われ、ここに新装した島原有料道路が完成した。
11	都心の敷地いっぱい計画した高さ300mの複合ビル「あべのハルカス」の設計上(意匠、構造、設備)の取組み、および地下から地上に至る施工記録
12	無人化施工技術(建設重機の遠隔無線操作)の課題は、通常作業に比べ作業効率の低下することである。課題解決のために、従来無人化施工技術の空間認知は、2D画像によるものであったが、今回3D画像を用いることとした。合わせて遠隔操作席を設け簡易バーチャルリアリティを導入するにより作業効率の向上が見られた。当該実証実験の映像記録。
13	東日本大震災によって発生した災害廃棄物を、宮城県石巻市に分別、処理設備を設置し処理作業を完了させた実績を紹介する。